



平成 25 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験活動の推進に関するワーキンググループ
2014/02/28

目次

I	体験活動プログラムの実施概要	1
II	体験活動プログラム活動報告	3
III	体験活動プログラム活動報告会	28

I 体験活動プログラムの実施概要

<プログラムの件数および募集人数>

○ 募集を行ったプログラムの総数は114件、募集人数は721名。

区分	プログラムの件数	募集人数
国内プログラム	51件 (45%)	384名 (54%)
海外プログラム	24件 (21%)	166名 (23%)
研究室プログラム	39件 (34%)	171名 (23%)
全プログラム	114件 (100%)	721名 (100%)

※【参考】平成24年度 プログラム件数:47件、募集人数:464名

<出願、採択状況>

- 全プログラムでの総募集人数721人に対し、出願者数は552名(76%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は327名(59%:出願者数比)。
- 国内プログラムは総募集人数384名に対し、出願者数は174名(45%:募集人数比)、出願者のうち、採択者は127名(72%:出願者数比)。
- 海外プログラムは総募集人数166名に対し、出願者数は331名(199%:募集人数比)、出願者のうち、採択者は160名(48%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは総募集人数171名に対し、出願者数は47名(27%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は40名(85%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択者
国内プログラム	384名	174名 <45%>	127名 《77%》	47名 《23%》
海外プログラム	166名	331名 <199%>	160名 《48%》	171名 《52%》
研究室プログラム	171名	47名 <27%>	40名 《85%》	7名 《9%》
全プログラム	721名	552名 <76%>	327名 《59%》	225名 《41%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者の数を含む。

※【参考】平成24年度 総募集人数:464名、出願者数:213名、採択者数:176名、不採択者:37名

<採択者の属性>

◆男女別内訳

○ 参加者 327 名の男女別内訳は、男子学生が 192 名 (59%)、女子学生が 135 名 (41%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	192 名 (59%)	135 名 (41%)	327 名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者 327 名のうち、学部前期課程学生は 181 名 (55%)、学部後期課程学生は 146 名 (45%)。

○ 参加者 327 名の学年別内訳は、1 年生 75 名 (22%)、2 年生 106 名 (34%)、3 年生 78 名 (24%)、4 年生 63 名(19%)、5 年生 5 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			9 名	14 名			23 名	16 名	7 名
医					4 名		4 名	3 名	1 名
工			16 名	9 名			25 名	19 名	6 名
文			15 名	9 名			24 名	12 名	12 名
理			3 名				3 名	2 名	1 名
農			9 名	8 名	1 名		18 名	11 名	7 名
経済			4 名	9 名			13 名	10 名	3 名
教養	75 名	106 名	6 名	6 名			193 名	104 名	89 名
教育			12 名	8 名			20 名	13 名	7 名
薬			4 名				4 名	2 名	2 名
計	75 名	106 名	78 名	63 名	5 名		327 名	192 名	135 名

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	16 名	12 名	13 名	11 名	20 名	3 名	75 名
(国内)	8 名	7 名	6 名	5 名	9 名	1 名	36 名
(国外)	8 名	5 名	7 名	4 名	5 名	1 名	30 名
(研究室)	0 名	0 名	0 名	2 名	6 名	1 名	9 名
2 年	18 名	10 名	21 名	40 名	12 名	5 名	106 名
(国内)	4 名	6 名	8 名	12 名	3 名	0 名	33 名
(国外)	13 名	4 名	12 名	14 名	7 名	3 名	53 名
(研究室)	1 名	0 名	1 名	14 名	2 名	2 名	20 名
計	34 名	22 名	34 名	51 名	32 名	8 名	181 名

II 体験活動プログラム活動報告

【国内プログラム】

01.障がいや難病のある高校生や大学生・読み書き障がいのある小学生のための大学進学・就労への移行支援プログラム DO-IT Japan

スカラーと呼ばれる、肢体不自由や視覚障がい、聴覚障がい、発達障がいなど様々な障がいのある高校生と大学生、及び読み書き障がいのある小学生を対象としたDO-IT Japanの活動に、学習・生活支援スタッフの役割で参加した。3泊4日の夏季プログラムでは、スカラーの自主性を重んじながら、移動のサポート、パソコン操作のアドバイス、食事の付き添い、ノートテイク、シンポジウムの会場設営などを行った。

日程： 夏季:2013/8/4(日)-8/7(水) 秋季:2013/10/21(木)-22(金)
参加学生： 4名
活動場所： 駒場第二キャンパス・東京大学先端科学技術研究センター
備考： DO-IT Japan <http://doit-japan.org/index.html>



アパレル店でのコーディネート実践



意見交換会

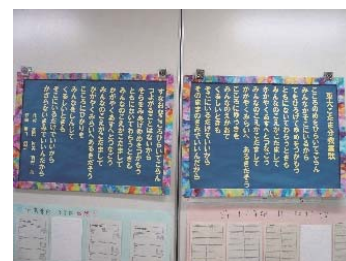
02.東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院の院内学級である東大こだま分教室にて、教室に通う子ども達に授業のアシスタントとして学習支援を行った。具体的には、ディスカッションや会話のパートナー、工作作業などを一緒に行い、定期的に入試や勉強について子どもたちの相談にのった。また、休み時間中は子どもたちと一緒に人生ゲームやトランプ、教室にある道具を使って遊びを考え、子どもたちとの交流を深めた。授業以外では病院内で開催された「食を学ぶ会」に参加し、子どもたちが普段食べている病院食や栄養について学び、子どもたちや先生と一緒に実際の病院食を食べた。

日程： 2013/8/1(木)-12/27(金)の間、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 本郷キャンパス・都立北特別支援学校 東大こだま分教室
備考： 東大こだま分教室
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



東京大学医学部附属病院



東大こだま分教室歌

03.日本語教室でのボランティア

日本語教室の授業に週1コマ以上参加し、初級、中級、上級クラスのアシスタントを行った。具体的には、先生の説明で理解できない部分の解説や、グループワークやディスカッション、文章作りに加わって会話の相手役となった。また、お手本として教科書の例文を音読することもあった。課外活動では茶道や生け花体験、湯島天神の菊祭りなどに参加し、留学生と共に日本文化について学んだ。Japanese Lunch Table では留学生と日本語で会話をしながら昼食をとることで、楽しみながら留学生との交流を深め、国際的視野・国際的感覚を養った。

日程： 2013/10/1(火)-12/27(金)の間、各自定められた日程
参加学生： 10名
活動場所： 本郷キャンパス・
東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
備考： 工学系研究科日本語教育部門
<http://www.jlscse.t.u-tokyo.ac.jp/>



授業のアシスタント



湯島天神の菊祭り

04. Disaster-Resilient Planning, Design + Reconstruction

宮城県南三陸町にて、「MIT Japan 3/11 Initiative」建築家グループの活動に参加し、地域の人々の集いの場となる休憩所を建築した。昼間の建築作業は、竹の伐採、枝の除去、竹を紐で結ぶ、建築場所にある岩の整備、配置する机、椅子、看板の作成など、多岐に渡った。夜は参加者全員で東北の復興や、今までのワークショップとその成果に関する講義を受け、意見交換が行われた。プログラム期間中はMIT 大学院と宮城大学の学生、教授、及び地域の人々と交流を深めながら作業した。

日 程： 2013/8/1(木)-8/11(日)
 参加学生： 10 名
 活動場所： 宮城県南三陸町
 備 考： MIT Japan 3/11 Initiative
<http://japan311.scripts.mit.edu/wp/>



休憩所の建築



休憩所の落成式

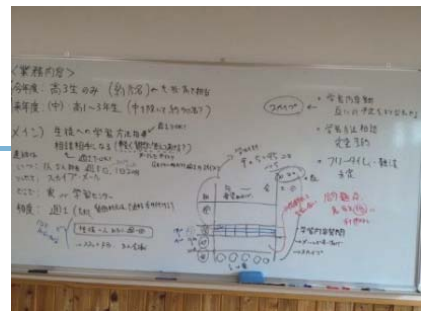


土地提供者のお宅での昼食

05. 公営塾：隠岐國学習センターをプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト

島根県の離島にある公営塾、隠岐國学習センターで、高校三年生の指導と公営塾の今後の発展に向けた提案を行った。夏季講習のカリキュラムを作成し、英語、現代社会、数学等の授業のアシスタントを行った。また、どのように従来のスタッフで塾の質を維持、向上するかという課題に、島外に住む大学生がスカイプ等インターネットツールを使用して塾生を指導するという解決策を提示し、実際に指導に取り組んだ。過疎化が進む離島で島民とのコミュニケーションを重視しながら、1ヶ月に渡り生活した。

日 程： 2013/8/1(木)-8/31(土)
 参加学生： 3 名
 活動場所： 島根県隠岐郡島前
 備 考： 島前高校魅力化プロジェクト <http://miriyokuka.dozen.ed.jp/>



課題解決のため参加学生3名で話した内容



畑作業の手伝い



海士町民謡キョニャモニャの練習

06. Documentary research for the French Embassy

在日フランス大使館の原子力部、政治部、宇宙研究センターで各自のテーマに関して文献調査をし、結果を報告書にまとめた。数ヶ月間、週に1~3度大使館を訪問し、テーマによっては福島での出張調査に同行、JAXAへの視察、関連する会議や学会に出席し、調査を進めた。大使館の業務を生でみるだけでなく、フランス大使館の職場の雰囲気を感じ、英語・フランス語を用いて就業する体験となった。

日 程： 2013年8月から12月の間、各自定められた日程
 参加学生： 6 名
 活動場所： 東京都港区・在日フランス大使館
 備 考： 在日フランス大使館
<http://www.ambafrance-jp.org/-Japonais->



CNES 東京、CNES 本部(フランス)の職員と宇宙科学研究所(つくば市)を訪問



大使館での作業風景

07. Internship program at Lycee Franco-Japonais de Tokyo

フランス語によるインターナショナルスクールである東京国際フランス学園(リセ)で、高校生の学習指導のアシスタントを行った。リセの高校二年生はバカロレア取得のために、人文社会系と理数系のクラスに属し各自の興味関心に応じてグループ調査・実験を自主的に行う。本プログラムでは大学で学んだ科学実験の知識を活かして、理数系のクラスに属する生徒たちに実験の助言をした。

日 程： 2013年9月から12月の間、週に1回程度
参加学生： 1名
活動場所： 東京都北区・東京国際フランス学園
備 考： 東京国際フランス学園 <http://www.lfjtokyo.org/>



東京国際フランス学園外観

08. 学術出版の体験的学習

東京大学出版会にて、出版・編集業務を体験した。日本の国立大学では初めての大学出版部として設立された東京大学出版会は、基礎的かつ開拓的な学術研究を体現する学術書、基本的かつ先端的な高等教育を支える教科書・教材、伝統的かつ現代的な主題に取り組んだ教養書・一般書など、まさに総合大学の出版部にふさわしい多種多様な書目によって構成されている。本プログラムでは、出版の過程、学術出版についての基本的な知識を学び、実際に一から本の内容を考えて企画を行い、最終日の企画発表会にてプレゼンテーションを行った。

日 程： 2013/9/2(月)–9/27(金)
参加学生： 1名
活動場所： 本郷キャンパス・一般財団法人東京大学出版会
備 考： 東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp/>



企画発表会

09. ベンチャー10番勝負！(帰れま10)

スタートアップ企業10社を訪問し、サービスの改善と提案を行った。具体的には、各社から出される課題に対する解決策を3人1組でまとめてプレゼンテーションを行った。「帰れま10」という名前の通り、提案した内容が企業側に納得のいくレベルに達するまで何度でもリバイスを行った。良い提案については実際にその案が採用されることもあった。また、時間も1社につき1日という厳しい制約の中で提案を行った。短期間で多くのビジネスモデルに触れ、また、多くの起業家に出会うことで起業家精神を学んだ。

日 程： 2013/8/19(月)–9/2(月)
参加学生： 3名
活動場所： 東京都渋谷区・MOVIDA JAPAN 株式会社
東京都内のベンチャー企業
備 考： MOVIDA JAPAN 株式会社
<http://www.movidainc.com/>



MOVIDA JAPAN 株式会社の役員と記念撮影

10.未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町の農村地帯で、町の取組みの現場を見学し体験した。具体的には、福祉施設で高齢者の会合に参加、介護施設や保育所での就労体験、工場見学、農業体験、町議会の傍聴、オンデマンドバス試乗など、様々な分野の取組みに参加した。また、福祉、教育、産業振興などの町の政策に携わる役員より、各政策の課題や問題点、解決策、将来の展望などについて直接話を伺った。

日 程： 2013/8/19(月)~9/1(日)
参加学生： 2名
活動場所： 三重県玉城町
備 考： 玉城町役場 <http://www.town.tamaki.mie.jp/>



町長、玉城町役場職員と研修成果報告会后に記念撮影



田丸保育所で子どもと一緒にダンス

11.陶板複製名画美術館を体験する

徳島県鳴門市にある陶板複製絵画を展示する大塚国際美術館で、古代ローマに関する子ども向けツアーのガイドを体験した。まず、美術館設立の経緯や、美術館の教育普及活動、陶板などについて講義を受けた。その後は、ガイドする絵画の選択、美術館職員のガイド風景を見学、解説原稿の作成、ロールプレイング等の準備活動を行い、活動最終日に20名程度の子供と保護者の前でガイドを行った。その他、ツアーの受付を体験し来館者と触れ合う機会もあった。

日 程： 2013/8/9(金)~8/11(日)
参加学生： 4名
活動場所： 徳島県鳴門市・大塚国際美術館
備 考： 大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>



子ども向けのツアーガイド体験

12.「市報の歩み」編集業務(広報誌から見る三浦の生活改善史)

神奈川県三浦市が取り組む市史編纂事業を体験した。具体的には、過去の広報誌から興味のある分野に関する記事を抽出・選定し、その記事等に考察・所見を加えて三浦市における特定のテーマによる事象の変遷をレポートとして取りまとめた。活動では、一カ月に一回発行されている広報誌「三浦市民」の膨大なデータから、消防、水道、衛生、体育・文化施設の4つの分野について、三浦市の市制施行(1955年)以後の歴史を市役所にある広報誌や参考図書を用いてまとめた。また、活動の前半は三浦市職員の案内のもと、実際に三浦市の様々な場所を訪問することで、三浦市の地形や最近までの歴史を学んだ。

日 程： 2013/8/22(木)~9/4(水)
参加学生： 1名
活動場所： 神奈川県三浦市
備 考： 神奈川県三浦市 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/>



三崎臨海実験所を訪問

13. 「観光フィールド大学・加賀温泉郷まるごとキャンパス」体験事業

北陸新幹線の二年後の金沢暫定開通をうけ、加賀市の観光地としての魅力やアピールの仕方についての構想を学んだ。加賀市の三つの温泉地、片山津、山代、山中のそれぞれの歴史や特徴、現状やこれからの課題、戦略方針などについて細かく説明を受け、大聖寺地区を実際に散策してその魅力を肌で感じた。また、山中漆器や九谷焼といった伝統工芸に触れ、ラムサール条約で保護されている片野鴨池で野鳥の観察を行った。さらに北前舟の拠点として栄えた橋立地区などの伝統建造物保存地区を、専門家の方たちの説明を受けながら視察した。

日 程： 2013/9/17(火)~21(土)
参加学生： 5名
活動場所： 石川県加賀市
備 考： 加賀市 <http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>



九谷焼の絵付け体験



加賀市長との面談



商工振興課での研修

14. ポスト新しい公共の場づくり事業協働体験

神奈川県三浦市の市民協働課にて、市民が主体となって企画運営しているイベントの準備から実施までを体験した。主な活動内容は、事前の広報活動としてイベント主催者に対するインタビューや神奈川新聞への寄稿、市長との談話や facebook 用の記事執筆等を行った。また、イベントの準備ではパンフレットの作成、案内板の設置構想・製作を行い、当日はインフォメーションセンターでの対応やイベント参加者の誘導を行った。活動内容は多岐にわたり、プログラム期間中はイベントに参加する地域の人々との交流を深めながら作業した。

日 程： 2013/9/16(月)~20(金)、24(火)~28(土)
参加学生： 1名
活動場所： 神奈川県三浦市
備 考： 神奈川県三浦市 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/>



三崎マグロ水揚げ

15. 農業・牧場作業体験@北海道

北海道美深町の農場・牧場で、農作業や牧場作業を体験した。農業体験では、かぼちゃ・きゅうり・ピーマンなどの収穫、収穫の終わったビニールハウスの片づけ・解体、野菜の袋詰め、小豆畑の草取り、倉庫の整理、まき運びなどを行った。牧場では、羊の餌、水、草やり、搾乳、放牧、爪切り、毛刈り、出荷羊の体重測定、堆肥の運搬など、羊に関わる様々なことを体験した。その他にも、美深町の町内運動会や体育協会のパーティーへの参加、観光協会主催でカヌー体験やバーベキューへの参加など、多くの美深町の住民と交流を深めた。

日 程： ①2013/8/19(月)~30(金)、②9/2(月)~13(金)、
③9/16(月)~27(金)
参加学生： 12名
活動場所： 北海道中川郡美深町
備 考： 松山農場 <http://matsuyama-farm.com/>



羊の毛刈りと体重測定



宿舎での共同自炊

16. 農業体験と漁業体験

自然農法で野菜や米を作っている農家の方に指導してもらいながら、農作業や地域の方々との交流、町づくりに関する意見交換などを行った。単なる作業に終始することなく、自然農法の意義やその実践の困難、田圃や畑の草取りの必要性、将来の日本の農業のあり方なども含めて学びながらの活動だった。実際の農作業は、ビニールハウスでの野菜の収穫、田圃の草取り、作業小屋設営の手伝いや、フォークリフト、小型ブルドーザー、小型パワーショベルの運転を体験した。また、冬に向けたビニールハウスの解体作業も体験した。

日 程： ①2013/8/4(日)-8/12(月)、②8/26(月)-8/31(土)

参加学生： 7名

活動場所： 青森県西津軽郡深浦町

備 考： 青森県深浦町 <http://www.town.fukaura.lg.jp/>



深浦町の皆様とバーベキューの後で



深浦町長と町づくりについての意見交換



乗船体験

17. 多様な役割を担う家畜

初日は乗馬体験と牧場内の見学を主に行い、二日目は、搾乳体験と牛舎の清掃を行った。搾乳では、乳頭の消毒・清掃、搾乳機の装着などの作業を体験すると共に、乳頭炎を患っている牛への対処法(発見法やその牛のミルクが出荷用に混入しないための工夫など)を実践しながら学んだ。牧場内の放射線測定のため、牧場内の数カ所の野草・野菜を採集して、茎や穂などの部位ごとに分け、測定機用の容器に詰める作業を行った。三日目は、牛と山羊の直腸妊娠検査を行い、牛は長いビニール手袋をはめ、直腸に手を入れて、子宮や卵巣の位置を確認した。また、山羊はエコーを用いて子宮や卵巣、卵胞の様子を確認した。

日 程： 2013/8/5(月)-8/7(水)

参加学生： 3名

活動場所： 茨城県笠間市・

東京大学大学院農学生命科学研究科附属牧場

備 考： 附属牧場 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bokujo/>



搾乳と餌やり

18. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

森林管理計画に基づく収穫木の選定と収穫量の調査を行った。毎木調査により、木の状態を見て、どの木が切られるべきか、どのくらい切るかを分析した。選定された木は、伐採者に見分けられるように、樹皮の表面に東大のスタンプを打ち、番号をつけてGISと輪尺で木の位置と太さを記録した(木の情報のデータ化)。こうすることで、一本一本の木の情報を把握する事ができる。収穫した木は丸太に加工し、S管というプラスチックの管を打ち込んで、丸太が劣化で割れるのを防ぎ、質により一等から四等の等級を刻印した。

日 程： 2013/9/26(木)-10/4(金)

参加学生： 2名

活動場所： 北海道富良野市・

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

備 考： 北海道演習林

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



試験地の調査(直径の測定)



丸太の生産(品等の刻印)

19. 星空をすべての人のポケットに ～天体画像の社会的利用促進活動～

理学系研究科木曾観測所に1泊2日で滞在し、天体画像の処理、パブリックアーカイブ化を行った。主な活動内容は、白黒の観測データを、カラーのデータに直す3色合成法の講習を受け、そのプロセスを身につけた。また、ムービーメーカーの使い方講習、望遠鏡とその他施設の撮影、写真資料集めを行い、撮影した画像を基にしたプロモーションムービーの作成を行った。プログラム期間中は大学院生との交流を深めながら作業を行い、天体望遠鏡の原理、性能、種類、スケール、天文学に於ける役割を学んだ。

日 程： 2013/9/20(金)-9/21(土)
参加学生： 2名
活動場所： 長野県木曾郡木曾町・東京大学大学院理学系研究科
附属天文学教育研究センター木曾観測所
備 考： 東京大学木曾観測所
<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp/>



天体望遠鏡外観



天体望遠鏡本体



木曾福島の街並み

20. 海のフィールドワーク体験活動

農学部水圏生物科学専修の必修フィールドワーク「漁業学実習」の全日程に参加した。具体的には、定置網漁、船曳網漁、棒受網漁、たこ壺漁を行い、ロープを結ぶ結索練習や網を編む練習、網の測定、獲れた魚をさばく練習も行った。また、実習以外では三崎臨海実習所の歴史や研究内容の座学、展示室の見学を行った。活動では、網を船に運び込む、いくつかの船に乗り分かれて網を設置する、協力して引き揚げる、実験所に持ち帰って漁獲量を測定し種類を同定する、死骸や海藻が絡まった網を洗う、網を広げて干すとい漁業に必要な一連の行程を体験した。

日 程： 2013/9/2(月)-9/6(金)
参加学生： 1名
活動場所： 神奈川県三浦市・東京大学大学院理学系研究科
附属臨海実験所
備 考： 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所
<http://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/>



漁網に残った魚の死骸やゴミを除去する作業

21. まなびの茶話会プロジェクト@文京・葛飾

本学学際情報学府の学生が、文京区、葛飾区の母親らと協同開催している茶話会に参加した。保護者として参加した小学生向けの学習活動・地域活動の報告や、理系分野の研究者がゲストスピーカーとなり自身の専門分野について話す茶話会を体験した。主に母親の話を聞いていたが、子ども向けのプログラムを開催する時の懸念点を一緒に考え、課外活動など学生生活に関する話を提供した。

日 程： 2013年9月から10月の期間中数回
参加学生： 1名
活動場所： 東京都文京区及び葛飾区
備 考： 協同企画者である「親子で楽しく外遊びの会<青空っ子>」
<http://ameblo.jp/sorakko2011/>



文京区在住の小学生の母親と懇談

22.南伊豆という一地域との連携に学ぶ

第一回目は、放任竹林を整備する作業を行った。チェーンソーの使い方を指導してもらいながら、実際に自分でも何本も竹を切った。第二回目は、害獣として駆除された猪の解体や鶏の屠殺を行った。猪の燻製を大量に作る作業を行った。猪の肉をスライスし、それを燻製液につけて干し、加工する作業が中心だった。第三回目は、自然薯を収穫し、加工して町が運営する直売所で販売するという一連の作業を体験した。また、しいたけの菌打ちを行った。丸太にドリルで穴をあけ、そこにしいたけの菌駒を打ち込んだ。

日 程： 2013/10/11(金)-13(日)、10/25(金)-27(日)、
11/29(金)-12/1(日)

参加学生： 1名

活動場所： 静岡県南伊豆町近郊

備 考： 樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



チェーンソーを使った放置里山の整備



切り出した木にシイタケの菌駒を打ち込む

23.明石市役所での就労体験事業

1日目は、政策室で業務の説明を受けた後、市有地の処分の難しさ、市民からの声と行政側の都合との兼ね合いを学んだ。また、あまり市民に利用されていない施設の有効活用について学び、政策立案を行った。2日目は市民相談課で、NPO団体の陳情懇談会の準備と傍聴、市役所受付や保育ルームの対応体験を行った。市長との懇談会も行われ、他大学生と共に事前課題の内容をもとに意見交換を行った。3日目は、市長室で子ども市長見学というイベントの準備と傍聴、市長と市役所若手職員の懇談会への随行を体験した。最終2日は「子供を産み、育てたいと思える街」にするにはどうしたらよいかというテーマで政策の提言をした。

日 程： 2013/8/26(月)-30(金)

参加学生： 2名

活動場所： 兵庫県明石市近郊

備 考： 明石市 <http://www.city.akashi.lg.jp/>



市役所保育ルーム



市役所受付

市役所内での研修

24.農山村における社会的弱者支援事業への参加プログラム

本学教育学研究科の牧野教授が指導した「若者よ田舎をめざそう」プロジェクトの実施主体である、株式会社 M-easy が展開する農業を中心とした新たな志意農山村生活に参加した。具体的には、蒔を割っての炭作り、自家製建築に使用する不要布団の中綿を用いた断熱材作り、農作物の収穫や袋詰めなど自給自足の生活を体験した。また、プログラム期間中に開所した都市部と農山村部のニーズをマッチングする「おいでんさんそんセンター」の開所式にも参列した。地元住人と交流しつつ、都市とはまったく異なる農山村の生活を体験した。

日 程： 2013/8/5(月)-8/8(木)

参加学生： 4名

活動場所： 愛知県豊田市旭地区

備 考： 株式会社 M-easy <http://www.m-easy.co.jp/>



布団の中綿を断熱材としてリサイクル



地域の子どもとおやつ作り



蒔を割って炭作り

25.復興まちづくりの業務体験

釜援隊(釜石リージョナルコーディネーター)の職員から釜石の現状について説明を受け、試験的に運行しているオンデマンドバスの広報活動で、仮設住宅を一軒ずつ回り、オンデマンドバスのクーポン配布と聞き取り調査を行った。祭りの準備の一貫としての草刈りや、ホタテのみみづけ、防災センターで行われる追悼式の準備、子供達との勉強会やレクリエーション等の活動を行った。また、各自釜援隊の職員の業務に同行し、実際の仕事を見学したり、難しい問題を抱えた事例を伺った。全活動を統括し、「東大生から見た釜石の可能性」というテーマで市の関係者の前で発表した。

日 程: 2013/8/1(木)-8/10(土)

参加学生: 5名

活動場所: 岩手県釜石市近郊

備 考: 釜石リージョナルコーディネーター募集ページ

<http://www.city.kamaishi.iwate.jp/index.cfm/12,23474,118,1,html>



ホタテの養殖作業を体験



仮設住宅での聞き取り調査

26.さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)

昭和大学病院の院内学級であるさいかち学級で、教室に通う生徒に授業のアシスタントとして週に一回学習指導を行った。学習指導は一对一で助言をするスタイルで行われ、子ども達が安心して、疲れ過ぎない環境作りを行った。また、休み時間には子ども達とゲームなどの遊びをしながら交流を深め、昼休みには小児科病棟に戻る子ども達に付き添うこともあった。テレビドラマ「赤鼻のセンセイ」のモデルにもなったさいかち学級担任の先生には、子ども達との接し方や授業の進め方、院内学級や病弱教育全般について幅広く学んだ。

日 程: 2013/8/1(木)-12/27(金)の間、各自定められた日程

参加学生: 2名

活動場所: 東京都品川区・品川区立清水台小学校

さいかち学級(昭和大学病院内)

備 考: さいかち学級

<http://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/saikachi/>



さいかち学級の授業

27.農業、地域文化、自然を通じたまちづくり事業の実施

特定非営利活動法人野外教育学修センター(魚沼伝習館)が行っているプログラムに参加した。具体的には、東京工科大学の学生と共に集落にある田畑の修繕方法を学び、長岡市で開催された研究発表会にも同行した。プログラム期間中は集落の運動会や食事会への参加を通して地域住人や東京工科大学の学生との交流を深めた。また、南魚沼市の後山地区にある小学校に教育ボランティアとして参加し、課外活動の補助役として教員のサポートを行った。後山地区に実際に居住することで、その生活のあり方を学んだ。

日 程: 2013/9/1(日)-12/27(金)の間、定められた日程

参加学生: 1名

活動場所: 新潟県魚沼市近郊

備 考: 特定非営利活動法人 野外教育学修センター「魚沼伝習館」

<http://www.uonuma-denshukan.com/>



田畑の再生作業



集落の田園風景



地域の運動会

28. 地域住民との学習・交流・体験を通じて地域の自立を考える 「南信州・飯田フィールドスタディ」

長野県飯田市における4日間のフィールドワークを通じて、地域文化や人との絆を大切にしながら、住民が主体的に担う地域づくりについて学んだ。市長からは飯田市の行政や政策に関して、地元住人からは住民自治と公民館の関係性、いいだ人形劇フェスタやりんご並木ネットワークなどの地域振興、子育てへの飯田市のサポート等に関して、話を伺った。また、農家民泊、郷土料理作り、稲刈り、人形を実際に動かす体験などを通して、地域文化への理解を深めた。

日 程： 2013/9/17(火)–9/20(金)
参加学生： 13 名
活動場所： 長野県飯田市
備 考： 長野県飯田市 <http://www.city.iida.lg.jp/>



人形劇体験



稲刈り体験

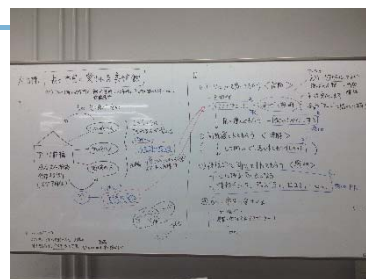


農家民泊

29. 美術館の立ち上げを体験しよう(東京大学三四郎会インターン企画)

2013年10月に開館されたアーツ前橋(前橋市立美術館)にて、美術館の立ち上げ業務を経験した。具体的には、開館展のチラシやポスターの発送作業、招待券への検印、美術館内に設置するライブラリーの蔵書の整理などを行った。また、作品の整備やアーティストの接待など美術館ならではの業務と、地域への挨拶回りなど美術館を運営する市職員としての業務を経験した。これらのフィールドワークをもとに、与えられた2つの課題に対して資料のまとめや調査を行い、最終日には美術館スタッフの前で成果発表を行った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2013/9/2(月)–9/20(金)
参加学生： 2 名
活動場所： 群馬県前橋市・アーツ前橋
備 考： 東京大学三四郎会 <http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro>



企画提案の打ち合わせ



アーツ前橋



美術館近くの街並み

30. 地方自治体の首長の抱持ち体験(東京大学三四郎会インターン企画)

北海道登別市、東京都文京区、三重県松阪市、京都府京丹後市のいずれかのインターンシップにそれぞれ参加し、抱持ちとして首長に師事し、業務の補助を行った。インターン先の市区町村によって内容は異なるが、首長が出席する内部の会議、来客対応、外部の講演・視察等に同行した。また、代表者への挨拶や会議で使用される資料の作成など、ただ首長に同行するだけにとどまらない活動を行った。首長が不在の際には各部署の見学や市民との交流を通じ、地方自治体が抱える問題点を多方面から考察した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2013/8/5(月)–9/1(日)の期間で、各自定められた日程
参加学生： 4 名
活動場所： 北海道登別市、東京都文京区、三重県松阪市、
京都府京丹後市
備 考： 東京大学三四郎会 <http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro>



松阪市役所でのインターン

31.在宅医療・介護体験プログラム

柏市にある複数の在宅医療施設を見学し、患者や介護者の立場から医療・介護サービスの仕組みを学んだ。初日は、小規模多機能型ケアホームを訪問し、利用者を自宅まで送り自宅を見学した。住宅型有料老人ホームでは夜間巡回に同行し、排泄介助など介護者の仕事を目の当たりにした。2日目は在宅療養している患者の訪問看護に同行し、デイサービス施設では利用者と談話し交流した。最後に柏市の地域包括ケア取りまとめの担当者と意見交換をした。各施設で運営者や職員より施設設立の経緯や利用者の過ごし方等について話を伺い、理解を深めた。

日 程： 2013/9/19(木)-20(金)
参加学生： 1名
活動場所： 千葉県柏市
備考： 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会
「長寿社会のまちづくり」

http://kashiwa-toyoshikidai.org/uploading/110628_kashiwa-toyoshiki.pdf



デイサービス施設見学



小規模多機能型
居宅介護施設



住宅型有料老人ホームの業務見学

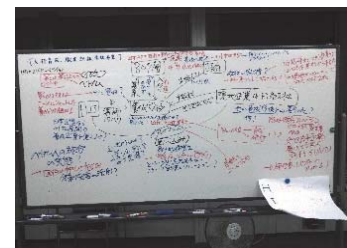
32.金融・財政に関する就労体験（東京大学三四郎会インターン企画）

財務省、金融庁、株式会社三井住友銀行、ゴールドマン・サックス証券株式会社をそれぞれ約1週間ずつ就労体験した。金融に関する官民様々な組織での仕事を実体験することで、組織内でのコミュニケーションや意思決定のプロセスを体感した。また、日本の金融・財政が抱える課題とそれに対する政府や各金融機関の取り組みについて学んだ。プログラム期間中は各インターン先の職員との十分なコミュニケーションの機会が設けられていた。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2013/8/5(月)-8/28(水)
参加学生： 4名
活動場所： 東京都千代田区・財務省、金融庁、港区・ゴールドマンサックス証券株式会社、兵庫県神戸市・株式会社三井住友銀行
備考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



ゴールドマン・サックス証券株式会社でのインターン



三井住友銀行でのグループワーク

33.地方高校での教員体験（東京大学三四郎会インターン企画）

千葉県鴨川市の文理開成高等学校にて、高校生に学習支援を行った。具体的には、毎週土曜日に担当する科目の授業を行い、毎週水曜日は土曜日の授業に向けて参加者間でミーティングを実施し、授業の方針や内容、生徒の現状把握などに関して意見交換を行った。夏休みには2回の合宿に参加し、学習方法や進路相談以外にも、スポーツなどを一緒に行うことで生徒との信頼関係を築き上げた。学習支援以外では、文理開成高等学校理事長と校長に同行し、地元中学や鴨川市役所を訪問した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2013/8/1(木)-12/21(土)
参加学生： 4名
活動場所： 千葉県鴨川市・学校法人村山学園 文理開成高等学校
備考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



文理開成高校の教室からの風景



鴨川市役所を訪問

34. ビジネスからの公共性の創出体験（東京大学三四郎会インターン企画）

大船渡市の NEXt.CHANGE、石巻市のサステナジー、渋谷区のキャンサーズキャンのいずれかの社会的企業のインターンシップに参加した。具体的には、NEXt.CHANGE では東北の復興と絡めた地域振興策のケーススタディを、サステナジーではデータの解析、及び経営の指針であるエクセルデータの改良を、キャンサーズキャンでは献血ドナーの勧奨として、献血経験者に送信する勧奨メールを作成した。活動では、普段話す機会のない世代の人々と交流することで、勉強や仕事では得られない多くのことを学んだ。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



陸前高田市

日 程： 2013/8/1(木)–9/26(木)の期間で、各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 岩手県大船渡市・NEXt.CHANGE、宮城県石巻市・サステナジー、東京都渋谷区・キャンサーズキャン

備 考： 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

【海外プログラム】

01. ワークキャンプ(主に障がい児者のデイセンター整備)

ボルネオ島にある知的障がい児者のデイセンター「ムヒバ」の整備ワークキャンプに参加した。本学以外の日本からの一般参加者、ムヒバ利用者、ムヒバ職員、現地住民、キャンプ主催者と一緒に、中の魚が見えるように以前に作った池の掃除をし、ブランコを設置する小屋を作った。ワークの後は現地のイバン族の民謡で踊る、日本の歌謡曲 kiroro の「未来へ」を合唱するなど、ムヒバ利用者らと交流を深めた。イバン族特有の集合住宅であるロングハウスに滞在し、夜は日本からの参加者と主催者全員で「共生」や「仕事」について討論した。

日 程： 2013/9/1(日)-9/8(日)
参加学生： 3名
活動場所： マレーシア サラワク州
備 考： アジア地域福祉と交流の会 <http://blog.ace-jps.com/>



ブランコを設置する土台になるセメント作り



イバン族の音楽を披露するムヒバ利用者



ムヒバの外観

02. アメリカで仕事の現場の話を聞いてみよう

在米の卒業生が講師となり、実業体験をもとにアメリカでの法律、ファイナンス、研究、メディア、医療機関、NGO、国連などでの業務の説明を受け、質疑応答・ディスカッションを行った。訪問先は、国連、国連日本政府代表部、ロイター通信、ミキハウス USA、Beth Israel Hospital、Japan Society、コロンビア大学、三菱商事 USA、モリソンフォースター法律事務所、Canon USA で、普段どのような仕事や研究をされているのか、どのような経緯があってニューヨークで働く事になったのか、また、キャリア観や人生観を教えて頂いた。

日 程： 2013/8/26(月)-8/30(金)
参加学生： 12名
活動場所： アメリカ ニューヨーク州
備 考： さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp>
NY 銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



ロイター通信



コロンビア大学
建築学部



Canon USA

03. グランゼコールでの研修、およびパリで働く卒業生から学ぶ

フランスのエリート養成機関であるグランゼコールの最高峰、Ecole Polytechnique の学寮でルームシェアをしながら、パリ市内の様々な国際機関・企業で働く東大卒業生を訪問した。現地学生とは自炊、市内観光、思想や日本の印象などに関する意見交換を通じ交流を深めた。訪問した企業・施設は、ユネスコ本部、日本文化会館、OECD 本部、フランス文科省、IEA、ルノーデザインセンター等、他分野にわたった。フランス赤門会主催の交流会でも卒業生より海外で働く意義について話を伺った。最後に、参加者全員でプログラムから学んだことを関係者に向け発表した。

日 程： 2013/9/18(水)-9/27(金)
参加学生： 10名
活動場所： フランス パリ
備 考： Ecole Polytechnique <http://www.polytechnique.edu/>



パリ市内にあるユネスコ本部



現地学生と一緒にヴェルサイユ見学



大学の歴史に関する講義

04. Monterey Bay during the week

モンタレー湾水族館、水族館の研究所である Monterey Bay Aquarium Research Institute(MBARI)と生物系の研究がさかんな Moss Landing Marine Laboratories(MLML)を見学し、モンタレー湾に生息する豊かな海洋生物群及び、関連する最先端の研究活動と水族館などを含めたその普及活動に触れた。MBARI では海中調査のロボット、調査船や映像データを、MLML では海中の哺乳類、鳥、魚、サメなどの生物標本を見て研究活動に触れた。水族館や海岸では普段日本では見られない生物を観察し、最終日には UC, Davis 所属の日本人研究者より海外での生活や研究活動について話を伺った。

日 程： 2013/9/9(月)–9/14(土)
参加学生： 4 名
活動場所： アメリカ カリフォルニア州
備 考： MBARI <http://www.mbari.org/>
MLML <http://www.mlml.calstate.edu/>



水族館附属研究室の MBARI 内の実験装置見学



モンタレー湾水族館で見つけたクラゲ



MBARI で調査に関する講義

05. 欧州国際共同研究ラボ EUJO-LIMMS パートナー機関の訪問と現地学生との交流

本学の欧州国際共同研究ラボ EUJO-LIMMS のパートナー機関を訪問し、科学分野における国際共同研究を体験した。フライブルク大学工学部マイクロシステム工学科(IMTEK)では、実際の研究現場で現地の教授や大学院学生の指導を受けながらナノテクノロジーに関する研究に触れた。また、EUJO-LIMMS が 1 年に一度ヨーロッパで開催する説明会に参加し、英語で学会を聴講したり、レセプションパーティで海外研究者らと談話したりと、グローバルな研究の舞台を体感した。また、欧州連合及び欧州評議会では、議会を見学し組織の成り立ちや歴史を学んだ。

日 程： 2013/10/21(月)–10/26(土)
参加学生： 4 名
活動場所： フランス ストラスブール、ドイツ フライブルグ
備 考： EUJO-LIMMS <http://limmshp.iis.u-tokyo.ac.jp/>



IMTEK で現地学生と研究活動



CNRS で最先端の電子顕微鏡を見学



欧州評議会

06. 韓国における日本語ボランティア体験とソウル大学での交流

韓国で日本語ボランティア活動と、文化でまちづくりに成功した地域の視察をした。国際交流基金ソウル日本文化センターの協力で3つのグループに分かれ、中学校と高校で日本文化を紹介するボランティアに取り組んだ。ソウル大学では現地学生と「日韓文化受容」「東日本大震災後の日本」について、日本語でディベートをし交流した。その後数日間かけて、芸術の殿堂、国立劇場、チョナン独立記念館、ガムチョン文化村等、文化施設及び文化で町興しに成功した地域を視察した。文化財団では韓国における芸術施設の運営や学芸員の仕事について話を伺った。

日 程： 2013/8/26(月)–8/31(土)
参加学生： 7 名
活動場所： 韓国 ソウル、プサン
備 考： 国際交流基金ソウル日本文化センター
<http://www.jpf.or.kr/japanese/>



国立劇場舞台裏



ソウル南部にある総合芸術文化施設「芸術の殿堂」見学

07.アメリカのハートランド(中西部)での仕事の現場の話を聞いてみよう

日本企業の米国支店、また自身で立ち上げられた企業の役員として地元を根をおろして活躍中のパイオニア的な先輩を訪問し、アメリカで働くことの醍醐味・難しさ、人生におけるキャリアなどに関して話を伺った。訪問先は、三井物産、マクドナルド本社、三菱商事機械部、アステラス製薬、新日鐵住金、日本電産、ITA ハミルトン・パートナーズなどで、ノースウェスタン大学やシカゴ領事館への訪問も行った。

日程：2013/8/5(月)~8/9(金)
 参加学生：5名
 活動場所：アメリカ イリノイ州
 備考：シカゴ赤門会
<http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/kaigai.html>



三井物産



日本電産でぐるり体験

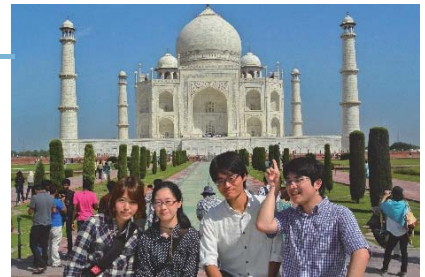


マクドナルド本社

08.インド・ニューデリーで卒業生と一緒に国際体験

学生交流(ジャワハルラル・ネルー大学、デリー大学)と、日本大使館、日本政府機関(JICA,NEDO)、国連機関(WHO)、日系企業(インド新日鐵住金、メタルワンインド、infoBRIDGE 等)で一日体験を行った。JICA では、組織や活動内容について学んだ後、日印協力の成功例といわれるデリーメトロに乘車し、地下鉄が市民に与えた影響と改善点について分析した。この結果をもとに、日本の地下鉄の紹介やその対比も交えつつプレゼンテーションをし、現地の大学生とディスカッションを行った。メタルワンインドでは、マルチスズキなどの日系企業をサポートする各種工場を訪問し、日本の製造業がインドにおいてどのような活動を行っているかについて学んだ。

日程：2013/9/22(日)~9/29(日)
 参加学生：4名
 活動場所：インド ニューデリー、グルガオン
 備考：インド赤門会
<http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/kaigai.html>



タージマハル



卒業生の皆様と



JICA で一日体験

09.キャリアを探す中国ツアー ～中国のトップ大学・現地企業等の訪問及び交流～

北京では北京大学、清華大学への訪問と現地の大学生との交流、自由活動(故宮見学)を行うと共に NEDO、三井物産、日本大使館を訪問した。夜は北京校友会の卒業生との懇親会に参加し、その後移動した上海ではヤクルト上海工場、SWFC ビル、世界一の港である鷹山埠頭の見学、復旦大学の学生との交流と上海銀杏会の卒業生との懇親会に参加した。スピード感をもって刻々と変わりゆく街の様子を垣間見、中国で仕事をする上では日本とは異なる人間関係の形成が重要になってくることなどを、滞在を通して知ることができた。

日程：2013/9/11(水)~9/18(水)
 参加学生：15名
 活動場所：中華人民共和国 北京、上海
 備考：東大北京校友会
<http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/kaigai.html>



北京大学(現地交流学生の皆様と)



ヤクルト上海工場見学



夜の上海街歩き

10. iUP・Veneto Experience

ヴェネチアを地図なしで自ら歩き回り、建物の細かな特徴、ヴェネチアに住む人々の習性、街灯のデザインや配置などヴェネチアの町並みをじっくり観察し特徴を発見した。毎朝課される課題のもとに自由に歩き回った後、「空の高さ」や「海の深さ」など抽象的な概念をテーマにディスカッションした。プログラム期間中4日間は、カルロ・スカルパが設計したブリオン家墓地を訪れ、メモやスケッチをしながら「場の力」について考察した。最終日には“place by design” “Veneto Experience and me”をテーマに各自がプレゼンテーションした。

日 程： 2013/9/2(月)-9/15(日)
参加学生： 11 名
活動場所： イタリア ヴェネト州
備 考： Veneto Experience <http://www.venetoexperience.com/>



4日かけて観察したヴェネチア出身のカルロ・スカルパが設計したブリオン家墓地



ブリオン家墓地を内側から撮影した写真



ヴェネチアの町を地図なしで散歩

11.オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国)

毎日、朝8時から13時まで農作業、14時から15時までハウスワーク(家事手伝いや雑務)を行った。その日に必要な作業は朝食後に適宜振り分けられ、作業の内容は毎日のように変わるほど多様だった。農作業は、作物(ニンジン、水菜、ピーマン、唐辛子、トマト)の収穫、草むしり、馬糞や牛糞の回収、ニワトリやヤギの餌やり、ヤギの爪切り、散水パイプの回収などが主な作業で、ハウスワークは、ニンニクを束にする、ニンジンを切る、卵を洗う作業などが中心だった。基本的に午後と週末は自由に活動した。

日 程： ①2013/8/4(日)-18(日) ②8/18(日)-9/1(日)
③9/1(日)-15(日) ④9/15(日)-29(日)
参加学生： 8 名
活動場所： アメリカ ニュージャージー州
備 考： さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp>



ヤギの爪切り



卒業生とのピクニック



参加者同士での昼食

12.ロサンゼルスで映画製作とソーシャルデザインを体験する2週間

映画産業の聖地、ハリウッドのあるロサンゼルスで、参加者が各自のテーマに沿った映画制作を体験した。ロサンゼルス在住の映画に関わる人たちとの交流や、米五大フィルムスクールの一つであるUSCを視察した。卒業生にインタビュー方法の指導を受け、撮影現場や関連イベントなどを訪ねた。プログラム終了後も、様々なサポートを受け、各自が撮り溜めた映像を編集し作品に仕上げた。

日 程： 2013/8/7(水)-8/21(水)
参加学生： 7 名
活動場所： アメリカ カリフォルニア州
備 考： 南加東大会 <http://www.nanka-todaikai.com>



卒業生の皆様と歓迎会の後で



グリフィス天文台



Nikken International

13. Work experience in the international venture business in Boston

ボストンにあるベンチャー企業、Global Project Design(GPD)で10日間のインターンシップを行った。GPDが使用しているソフトの出力データを、よりわかりやすく可視化してユーザに出力結果の新しい発見を促す、という課題に取り組んだ。ソフトの使用方法やプロジェクトの進め方について指導を受け、参加学生でディスカッションを行い課題の進め方を決定した。プログラム期間中、Microsoft社、Rethink Robotics社を見学し、会社の立ち上げ方法や職場環境の作り方について話を伺った。休日にはGPDの役員とバーベキューを楽しんだり、MIT学生と交流する機会も得られた。

日程：2013/9/2(月)–9/11(水)
参加学生：4名
活動場所：アメリカ マサチューセッツ州
備考：Global Project Design, LLC <http://www.gpdesign.com/>



与えられた課題のプレゼンテーション



マイクロソフト訪問



休日のバーベキュー

14. 国際インターンシップ ～グローバルな環境で仕事する楽しさを学ぶ～

オーストリア第二の都市グラーツに本社がある、アナログICの会社で1ヶ月間のインターンシップを行った。医療機器のマーケティング部で、会社が投資すべき半導体技術について調査した。まず、肥満や高血圧等の疾患に対する、予防や検知に有効なパラメータを調べた。次に、パラメータを測定する既存の半導体技術について、技術の詳細、将来性、その技術を研究している機関、企業などを資料にまとめ、上司に報告した。様々な国のインターン生がいる寮に滞在し、業務終了後や休日は上司や友人とアウトドアなどを楽しんだ。

日程：2013/8/1(木)–9/5(木)
参加学生：1名
活動場所：オーストリア グラーツ
備考：ams Japan <http://www.ams.com/jpn>



古城を改築したams本社の外観



グラーツの旧市街地



最終日に上司と記念撮影

15. フランス中世のゴシック大聖堂の現地調査

フランスのラン大聖堂の空間を体感し、実測、観察を通して理解を深めた。まず大聖堂を一通り見学し、測量場所や計測機器の準備をした。実際の計測はレーザー距離計と巻尺を用いた測量と野帳への記録を二人一組のペアで行い、その他石の大きさや高さを詳細に観察し、スケッチをして、身廊、交差廊、トリビューン等の平面図と立体図を作成した。聖堂以外にもラン市街地にある歴史的建築物や文化が現在どのような形で遺されているのか、実際に歩いて観察することで確認した。

日程：2013/9/15(日)–9/21(土)
参加学生：5名
活動場所：フランス ラン
備考：工学系研究科建築学専攻 加藤耕一研究室
<http://www.history.arch.t.u-tokyo.ac.jp/kato/Welcome.html>



レーザー距離計を用いて実測



大聖堂内部



3チームで実測

16.ネパールスタディツアー—教員活動と現地 NGO への参加—

ネパールの中高等学校で授業を行い、2つの NGO でその活動を体験・視察した。中高等学校では、低学年には相撲や折り紙など文化的な遊びを教え、中学年には家族紹介や感じていることを発表する力を、高学年には自分の将来など考えていることを発表する力を養うよう、学年毎に適した授業を実施した。教員活動の最終日には射的や輪投げなど日本文化を紹介する縁日を企画した。辺境地域に住む女性を教員に育成する NGO では算数の劇を披露したり、環境保全、持続可能な農業発展、インフラ整備を軸に活動する NGO では農業施設を視察した。

日 程： 2013/9/14(土)–10/3(木)

参加学生： 5名

活動場所： ネパール ラリトプール郡、カスキ郡、チトワン郡

備 考： 2013年3月に東大とJICAの共催事業でネパールを訪れた学生が企画した。



女性教育を支援する NGO での活動



低学年に折り紙指導



縁日体験で射撃

17.UNIVERSITI TEKNOLOGI PETRONAS – THE UNIVERSITY OF TOKYO (UTP-TODAI) SUMMER HOLIDAY PROGRAM

ペトロナス工科大学のサマースクールに参加した。主な活動内容は、マレー語、ガムラン(民族音楽)、民族舞踊などの伝統文化を学び、フェアウェルパーティーにてガムランと民族舞踊の成果発表を行った。アクティビティではジャングルトレッキングやカヤックを体験し、いくつかのカンプン(村)にてホームステイも経験した。休日はマラッカのタマン・ミニ・マレーシアやオランダ広場、セントポール教会や王宮博物館など、マレーシアの歴史的背景のある地を訪問した。また、プログラム期間中はペトロナス工科大学の教職員や学生、群馬大学の学生やヨーロッパからの留学生と共に生活することで国際的感覚を養った。

日 程： 2013/9/15(日)–9/29(日)

参加学生： 9名

活動場所： マレーシア ペラ州・ペトロナス工科大学

備 考： Universiti Teknologi PETRONAS <http://www.utp.edu.my/>



ペトロナス工科大学の庭にて



カヤック体験



フェアウェルパーティーにて修了認定

18.新興国インドでのマーケティングリサーチ

インドに進出している日系企業でインターンを体験した。活動の内容は、インドへの日系企業参入の可能性と、どのような分野の企業が参入することができるのかマーケティングリサーチをし、最終日にプレゼンテーションを行った。インフラ面からインドをみる班、インド人の生活からインドをみる班の二つのグループに分かれ、マーケティングリサーチを行った。デスクリサーチ(参考文献やweb検索)、ヒアリング調査、店頭調査を行った上で情報を取りまとめ、レポート資料を作成した。

日 程： 2013/9/15(日)–9/21(日)

参加学生： 8名

活動場所： インド ニューデリーと近郊

備 考： infoBRIDGE <http://www.infobridgeasia.com/>

インド赤門会

<http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/kaigai.html>



infoBRIDGE でのインターン体験



現地の調査会社の職員からヒアリング



バザールでの店頭調査

19.ハンセン病と人間の尊厳

インドネシアのスラウェシ島を訪問し、世界においてはまだ根絶されていないハンセン病についての理解を深めた。主な活動内容は、現地ハサヌディン大学医学部学生の案内のもと、マカッサル市内のハンセン病患者や元患者のコミュニティ、総合病院、ハンセン病指定病院やハサヌディン大学を訪問し、治療中の患者や元患者、家族や関係者から話を伺った。また、WHO のジャカルタ事務局にて、ハンセン病や顧みられない病気について、より詳細な現状や各セクターでの取り組みを学んだ。本プログラムでは渡航前に、現地で何がしたいかを参加者同士で話し合い、公益財団法人日本財団を訪問してハンセン病にまつわる状況を把握した。

日 程： 2013/8/26(月)-8/31(土)
参加学生： 4名
活動場所： インドネシア マカッサル近郊
備 考： 東京大学医学系研究科国際地域保健学教室
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



患者村にある患者家族を訪問

20.医学と平和

カンボジアのプノンペンにて、カンボジアの医療制度が出来るまでの課程と歴史を学んだ。具体的には、WHO カンボジア支部職員、JICA カンボジアボランティアスタッフより、カンボジアで医療体制を支えるために必要なことを伺った。また、健康教育活動を行う NGO 法人 AHEAD の事務所やカンボジアの国立小児病院、地域のコミュニヘルスセンターを訪問し、支援の仕方や医療従事者への指導の仕方、病院のあり方を学んだ。紛争の様子を理解するために、地雷撤去活動を行っている団体 JMAS の事務所訪問や、残虐な大量虐殺を後世に残すために作られたトゥールスレン博物館の見学も行った。

日 程： 2013/8/3(土)-8/8(木)
参加学生： 4名
活動場所： カンボジア プノンペン近郊
備 考： 東京大学医学系研究科国際地域保健学教室
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



バタンバン郊外の診療所見学



カンボジア国立小児病院を訪問

21.サウジアラビア・プリンセス・ヌーラ大学国際交流体験活動

サウジアラビアの女子大学、プリンセス・ヌーラ大学にて、5日間合計15時間の授業でアラビア語を学習したほか、現地の学生との交流やリヤド市内の観光をした。現地学生との交流では、サウジアラビアの伝統工芸を体験するワークショップと中東の代表的な果実であるデーツを使ったお菓子作りを通じて親睦を深めた。観光では、サウジアラビアの歴史と発展について学び、メディアではなかなかとりあげられない、サウジアラビアの日常を垣間見ることができた。サウジアラビアの女性の実像を自分達なりに見ることができた。

日 程： 2013/12/20(日)-12/27(金)
参加学生： 4名
活動場所： サウジアラビア リヤド
備 考： プリンセス・ヌーラ大学
<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>



ファイサリアタワーの展望台



デーツを使ったお菓子作り



大学構内を走っているメロ内

22. 女子学生のためのフランスの文化・ビジネス～研修体験、および欧州で働く卒業生から学ぶ～

本学卒業生が代表を務めるフランス政府認定文化系 NPO 団体でのスタージュとして、卒業生の日々の活動に同行し指導を受けた。具体的には、国際見本市の出展ブースの場所を確認する、イタリア出張に同行し日本の漆器とヴェネチアングラスのコラボ作品制作の交渉風景をみる、など NPO 団体の活動を間近で体感した。ヴェルサイユ宮殿では、作品がどのような場所に展示されているか、どのような商品がショップで販売されているかについて解説を聞き、フランスの文化政策について理解を深めた。また、国際弁護士、公使、卒業生から女性の社会進出などについて話を伺った。

日 程： ①2013/9/6(金)–20(金) ②2013/9/18(水)–28(土)
参加学生： 4 名
活動場所： フランス パリ近郊、イタリア ヴェネチア
備 考： 仏日芸術伝統工芸協会 <http://aamfrjp.com/>



ヴェネツィア大学日本語学科の学生と懇親



日本の”Kawaii”文化を発信するイベント見学

23. 日本の近代化のモデルとしてのイギリスとそこで働く日本人の訪問

日本の近代化のモデルとなったイギリスの立法・行政・司法の場を見学すると共に、政治・経済・教育・マスコミ・科学技術の分野で活躍する卒業生と交流した。具体的には、①国会議事堂、バンク・オブ・イングランド(博物館)、高等裁判所、BBC など歴史的施設の見学、②英国財務省、欧州復興開発銀行、日本大使館、Harwell Oxford(オックスフォード近郊の研究学園都市)のシンクロトン設備といった公的機関・教育機関の見学とそこに勤める卒業生との交流やディスカッション、③JAL、三井造船、JR 東海、その他外資系民間企業に勤務している卒業生にキャリア形成やこれからの生き方について話を伺った。

日 程： 2013/8/19(月)–8/23(金)
参加学生： 10 名
活動場所： イギリス ロンドン、オックスフォード近郊
備 考： 英国赤門校友会 <http://www.todai-alumni.jp/eikoku/>



BBC 見学コースのラジオドラマの収録体験に挑戦



ロンドンヒースロー空港内での日本航空の業務体験



The Old Bailey (法廷)の見学

24. 手作りオックスフォード・サマープログラム

前半 2 週間は西洋古典学と法学(契約法・訴訟法)の授業を受けた。授業は講義形式ではなく双方向的なゼミ形式で全て英語で行われた。また、授業期間中には英国議会への訪問の他、農村地域や古城を訪れイギリスの政治から文化までを体験することができた。後半 2 週間は各学生が自らデザインし、スコットランド訪問や最終プレゼンテーションに向けた準備(講師による添削指導を含む)などを行った。宿泊は学生寮を利用し、自炊なども行い共同生活を営んだ。

日 程： 2013/8/12(月)–9/8(日)
参加学生： 12 名
活動場所： イギリス ロンドン、オックスフォード近郊、他
備 考： オックスフォード大学・ベイリオル・コレッジ
<http://www.balliol.ox.ac.uk/>



西洋古典学の大権威による講演



法曹学院テンプルの見学



オックスフォード大学クライスト・チャーチでの朝食

【研究室プログラム】

01.再生医療の研究開発に触れる

東大病院口腔外科ではティッシュ・エンジニアリング部と連携して骨・軟骨のトランスレーショナルリサーチに取り組んでいる。本プログラムでは、再生医療の研究開発の現場を見学し、細胞培養、再生組織作製などを体験した。具体的には、軟骨細胞を培養し、培養した軟骨細胞を薄く切断して染色液で見やすくし、顕微鏡下でどのくらい組織が成長しているかを確認した。また、東大病院にて口腔外科の診察の様子や、実際の手術の様子を見学するなど、再生医療をとりいれながら先進医療を進めている口腔外科の臨床現場を見学した。

担当研究室： 東京大学大学院医学系研究科 軟骨・骨再生医療寄付講座
<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>

02.「医学の知」の体験

■「手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！」

実際の手術(胃食道・乳腺内分泌外科)を直接見学した。手術室の中では、術者のすぐ後ろに立って見学することで、医師(術者・助手・麻酔医)・看護師その他大勢の医療従事者が関与している手術の空気を感じ、彼らが一体となって患者さんを治療している姿を見学した。また、摘出された胃や胆嚢といった臓器を解剖段階で実際に見、学問においては図表でしかなかった臓器が、人間の体内で機能していることを理解し、生命観が一変した。

■「臨床の死生学」

死生学の最前線について、文献・映像から学び、考察した。医療従事者や医学部生とのディスカッションを通して、認知症、がんの告知、延命治療、緩和ケア、臓器移植について学んだ。病院見学では、医療の現場を体験し、医師にインタビューをし、治療の希望書についての話伺い、延命治療やQOLについて考えさせられた。

担当研究室： 東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際センター <http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>
東京大学医学部附属病院 消化管外科学
http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html

03.農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

農産物や農地の放射性物質について、その検出・測定方法を通して、農地環境の実態に触れた。具体的には、対象とする農地環境において、どのようなサンプルがどのように採取され、前処理が行われるかを学び、サンプリングされた土壌や作物について、NaI シンチレーションカウンター(ガンマーカウンター)やゲルマニウム半導体検出器により測定を行った。さらに、得られたデータを農地環境でのサンプリングポイントと照らし合わせることで、農地環境における放射性物質の不均一性や分布の特徴を学んだ。得られたデータの提示方法についての工夫を議論し、最後に各自の体験を発表した。

担当研究室： 東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 放射線植物生理学研究室
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/radio-plantphys/index.html>
農学部の復興支援 <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>

04.微生物バイオテクノロジー体験

身の回りに存在する微生物を収集して、その秘めた機能を体験することで微生物の大切さ・不思議さを体感した。具体的には、土壌など環境試料中の微生物の多様性を分子生態学的方法で調べるとともに、同じ試料から種々の培地を用いて分離・培養して得られた微生物の多様性を肉眼や顕微鏡で観察することで、環境中の微生物の生態的な多様性を理解し、環境中に棲息する微生物の全体像を把握した。また、微生物が抗菌物質など有用物質の「生産能」を有していることを体験した。活動の過程では、最先端の分析機器などを実際使用した。

担当研究室： 東京大学生物生産工学研究センター <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>

05.脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

かつて心と身体(からだ)は別々のものとして扱われてきたが、脳科学をはじめとした近年の科学の目覚ましい発展によって、それらが文字通り、切っても切れない関係にあることが明らかになってきた。心と身体はどのような関係にあるのか、それらを良い状態に保つには、どういう方策が考えられるか、といった問題に対して、様々な角度から研究が進められている。本プログラムでは、そのような日々の研究の雰囲気を実際に体験した。具体的には、実験に立ち会ったり、研究ミーティングや論文紹介に参加するなど、各種のアクティビティに参加した。また、それらと並行して、様々なテーマに関してレクチャーや実習が行われた。

担当研究室： 東京大学大学院 教育学研究科 身体教育学コース <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

06.クラスター計算機の試作と並列計算

理論、実験と並ぶ第3の研究手段として、コンピュータを駆使する「計算科学」の分野が確立され、機械、自動車、航空、など従来の工学分野はもとより、ひとの意思決定や社会・経済現象のシミュレーションなどでも威力を発揮している。本プログラムでは、並列計算が実際にどう行われているかをハード、ソフトの両面で学び、そのスキルを獲得した。具体的には、Linux パソコンやネットワークの仕様を理解し、複数の PC を結合した PC クラスターシステム(並列計算機)を作成した。そして、そのシステム上で、通信ライブラリ MPI を用いた並列計算の基礎を学んだ。

担当研究室： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 奥田研究室
<http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/>

07.水循環・水資源研究短期体験

活動期間別に2つのコースが用意された。一つ目は2週間ほどで、研究に必要なツールを用いて、プログラミング、可視化、モデル最適化、等の課題に取り組み、研究室ゼミで成果のプレゼンテーションを行った。二つ目は3ヶ月ほどで、研究課題の設定から最終的な成果報告まで一連のプロセスを体験し、最終的に、学会で発表できる程度の報告を目指した。いずれのコースも一人の学生にチューター1名が配置され、随時コミュニケーションしながら水質調査に関する活動に取り組んだ。

担当研究室： 東京大学生産技術研究所 沖研究室 <http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html>

08.持続性循環資源工学研究室短期体験

当研究室は資源循環のためのプロセス開発を行っており、金属やシリコンをリサイクル・精錬する方法について研究している。本活動では、学生が研究の目的と方法について理解し、目的意識をもって実際の実験に触れることを重視した。高温での実験、真空機器の取り扱いを体験するほか、顕微鏡、分析器や研究室独自の物などの実験装置に触れた。実験以外にも、研究打ち合わせなどに参加して研究活動はどういうものか体感した。また、論文や物性のデータ集を利用して実験の構想を練り、研究の目的、方法、結果を発表した。

担当研究室： 東京大学生産技術研究所 前田研究室 <http://maedam.iis.u-tokyo.ac.jp/html/member.html>

09.量子力学・表面科学短期体験

英語の論文を読み、内容に関する発表、議論を行った。その上で、論文内容に関連する実験を体験した。テーマは、電子の波動性、分子運動の量子化、走査トンネル顕微鏡による単原子の観察、光電子分光のいずれから選び、実験の原理を学習し、実際の測定を体験した。最終段階では、研究の目的、価値、課題、実験手法、成果等の概要を理解し、5分程度のプレゼンテーションを行った。

担当研究室： 東京大学生産技術研究所 福谷研究室 http://oflab.iis.u-tokyo.ac.jp/Main/home/home_j.html

10.先進モビリティ・環境・新エネルギー先端技術見学体験

本プログラムでは、実際の地域社会において存在する切迫した課題とそれに際して既に様々に取り組まれている試みを直接見聞した。その上で厳しい現状を打破し得る先端技術開発の意義と進むべき道筋とについて深く考え議論する機会が提供され、「機動的な」研究人材の育成が目指された。具体的には、長崎市内(ハウステンボスおよび周辺、新上五島町、五島市)の研究施設を他大学の教職員、大学院生、学部学生と共に訪問した。

担当研究室： 東京大学生産技術研究所 鈴木(高)研究室 <http://robotics.iis.u-tokyo.ac.jp/>

11.最先端物質科学入門：「固体の中の宇宙」

最前線で活躍する研究者による講義と施設の見学に加えて、先端科学の現場を体験する実習テーマが用意された。コースは午前午後を通じた全4日間で、一日目は実習に必要な固体物理学の基礎知識の講義、2、3日目は実習、最終日は実習で得た成果について、口頭での発表会を行った。実習は、1つの理論コース「シミュレーションから物質の中を覗く」と2つの実験コース「結晶中の電子が創る量子物性」、「圧力下の電子の世界」からなり、物性研スタッフと若手アシスタントによる綿密な指導のもと、実験からその成果のプレゼンにいたる研究の一連の流れを体験した。

担当研究室： 東京大学物性研究所 上床研究室 <http://uwatoko.iissp.u-tokyo.ac.jp/>
東京大学物性研究所 川島研究室 <http://kawashima.iissp.u-tokyo.ac.jp/>
東京大学物性研究所 中辻研究室 <http://satoru.iissp.u-tokyo.ac.jp/>

12.核融合プラズマ実験入門 ―人工太陽は創れるか？―

本プログラムは、講義と実験を組み合わせた「新しいタイプの核融合エネルギー開発の入門プログラム」である。講義では、自然の太陽の観測からスタートし、人工太陽はどのように創るのか考えた。また、専門に進むための入門実験として東京大学本郷の核融合プラズマ閉じ込め実験を実際に体験し、プラズマの振る舞いを体験した。プラズマを直接観察できる小型実験で理解を深めた後、大型実験に参加し、核融合炉の経済性を高める基礎研究に参加した。講義と実験の組み合わせにより、各自の問題意識が一步進んだものとなった。

担当研究室： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻
小野・井研究室 <http://tanuki.t.u-tokyo.ac.jp/>

13.人工神経回路を作る

マイクロ加工技術を利用した人工神経回路作成の試みを体験した。

生体情報処理の中核である脳の実態は多数の神経細胞が形作る神経回路(ニューラルネットワーク)の活動である。この活動の理解、また活動に障害が生じた時の治療法開発に向け、神経回路を人為的に再構成する試みが進められている。本体験活動では、ネズミの脳から神経細胞を採取し、フォトリソグラフィを利用して形成したガイディング構造の上で育て、神経細胞が突起を伸ばして互いに結合し、回路を形成する過程をタイムラプスビデオ撮影により観察した。

担当研究室： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系 人間環境学専攻 神保・小谷研究室
<http://neuron.k.u-tokyo.ac.jp/?Research>

14.知能移動ロボットの行動と制御

ロボットを試作し、その動き方を作り、実世界で動くロボット、実世界における知能について理解した。

本プログラムの全体の目的は、マインドストーム等を用いて移動ロボットを製作、プログラミングし、与えられた作業を実現することである。

この体験を通して、ロボティクスの基礎(ロボットの形態、ロボットの制御系、ロボットの知能)、「実世界で動く」コンピュータのプログラミング技法、ものづくり過程、自分が開発した新しい技術をきちんと説明できる技術を習得した。

担当研究室： 東京大学人工物工学研究センター 移動ロボティクス研究室
<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm>

15.生命現象の複雑系モデル

生命現象の複雑なダイナミクスを数理的な知識およびコンピュータを用いることで理解することを目標とする。

生命現象は多数の複雑な要素が相互作用し、全体として機能を果たしている。この活動では、脳活動(あるいは循環器制御)に焦点を絞り、非線形な要素の相互作用を数理モデルとして記述し、実験によって知られている脳(循環器)のマクロなダイナミクスを再現するモデルを構築した。さらにはダイナミクスの鍵となる特徴量と個々のパラメータの関係をネットワーク理論、分岐理論、非線形解析によって明らかにした。

担当研究室： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系 人間環境学専攻 神保・小谷研究室
<http://neuron.k.u-tokyo.ac.jp/?Research>

16.イオン液体の実験を通して学ぶ化学研究体験

イオン液体の合成と分析及びそれを用いた反応実験によって化学研究を体験した。

本研究室は、金属を含むイオン液体や固定化イオン液体触媒の開発を行っている。イオン液体は、有機物アニオンと無機カチオンの組み合わせで、常温で液体となっており、溶液とは異なる特徴を持つ。合成が比較的簡単で構造をモディファイし、物性をコントロールできるため、その用途が広がっている。このイオン液体を題材に実験を行い、イオン液体の理解を深めた。また、合成、反応や様々な分析装置を利用し、化学研究の最前線を実体験した。

担当研究室： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻 複雑物質化学 佐々木研究室
<http://sas.k.u-tokyo.ac.jp/>

17.生命科学の最先端機器に触れてみよう

生命科学で用いられる以下の機器の原理を学び実際に操作した。1)遺伝子増幅装置(PCR):ゲノム DNA 及び DNA から PCR 法で特定の遺伝子領域を増幅する。2)DNA シーケンサー:サンガー法で上記遺伝子領域の塩基配列を決定する。3)高速液体クロマトグラフィー(HPLC):タンパク質の酵素分解物を HPLC で分離・精製する。4)質量分析計(MS):3 で得たペプチド断片を質量分析計で分析し、タンパク質中のどの部分のペプチドか MALDI-TOF MS を用いて決定する。5)小動物用 MRI 装置、共焦点顕微鏡、電子顕微鏡、ハイスループットスクリーニングシステムなどの実験装置を操作している研究現場を見学する。

担当研究室: 東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 片岡研究室
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/molecular-recognition/ja/>

18.生物個体に遺伝子を導入する

分子生物学の中で最重要な技術の一つである遺伝子導入を、昆虫や魚類個体を用いて体験した。遺伝子が個体の中でどう機能しているか、個体発生時の領域や時間によってどう制御されているか調べるには、遺伝子を個体に導入して解析する。しかし、最近は電気穿孔法(electroporation)などを用いて、簡便で迅速に遺伝子発現を調べることが可能になっている。本活動ではこのような新たな技術を体験し、遺伝子導入技術の基本知識を学んだ。具体的には、GFP(緑色蛍光色素タンパク質)遺伝子を昆虫の個体や魚類の胚に導入し、その発現や遺伝子導入効率を比較した。

担当研究室: 東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 遺伝システム革新学分野
<http://www.idensystem.k.u-tokyo.ac.jp/index.htm>

19.ラボで宇宙プラズマを体験する

プラズマ宇宙物理・核融合エネルギー研究を体験した。柏キャンパスの RT-1 磁気圏型プラズマ実験装置は、東京大学大型実験施設の一つで独自の実験技術を開発しながら最先端の研究が行われている。真空装置内に超伝導マグネットを磁気浮上させてダイポール磁場を発生し、天体のプラズマを模した実験ができる。このような先端的な研究も、学部で学ぶ基礎的な物理や数学とそんなにかけ離れておらず、実験で用いる機器は一つ一つ設計・製作される「手作り品」である。

担当研究室: 東京大学大学院新領域創成科学研究科 基盤科学研究系 先端エネルギー工学専攻
吉田・西浦研究室
<http://www.ppl.k.u-tokyo.ac.jp/>

20.離散マイクロモデルによる複雑環境システムシミュレーションへの体験

離散マイクロモデルを用いたシミュレーションという複雑系の研究の最前線を体験した。複雑系とは、多数または未知の因子が関係してシステム全体の振る舞いが決まるシステムにおいて、各因子に相互作用があるために、還元主義の手法ではシステムの未来の振る舞いを予測することが困難な系を言う。参加者は下記3つのテーマから1つを選んで体験した。1) 格子ボルツマン法による流体のシミュレーション 2) エージェントベースモデルを用いた金融市場のシミュレーション 3) セルベースモデルを用いたがんのシミュレーション

担当研究室: 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系 人間環境学専攻 数理システム分野
<http://www.scslab.k.u-tokyo.ac.jp/>

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会



平成 25 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 26 年 2 月 28 日(金)

場所：工学部 2 号館 213 教室
(本郷キャンパス)

式 次 第

一. 開会

一. 総長挨拶

【濱田 純一 東京大学総長】

一. 活動報告

- ◆公営塾：隠岐國学習センターをプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト（島根県隠岐郡島前）
- ◆グランゼコールでの研修、およびパリで働く卒業生から学ぶ（欧州フランス赤門会）
- ◆東京大学三四郎会企画
- ◆インド・ニューデリーで卒業生と一緒に国際体験/新興国インドでのマーケティングリサーチ(インド赤門会)
- ◆さいかち学級の学習支援(昭和大学病院さいかち学級)

一. 総 括

【大和 裕幸 理事・副学長】

一. 閉 会

司会：田中 大（教養学部文科二類 1 年）

木幡 愛（教養学部理科二類 1 年）

平成26年2月28日(金)、本郷キャンパス工学部2号館にて、体験活動プログラム活動報告会を開催した。報告会には、プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約200名が出席した。

開会にあたり、司会の教養学部前期課程、木幡愛と田中大より、体験活動プログラムは「よりタフに、よりグローバルに」次世代を担っていく学生を育成するという教育目標のもとに、学生が新しい価値観に触れ成長する機会であると説明があった。



学内外関係者 200 名が出席



司会の教養学部前期課程、木幡愛と田中大より開会の挨拶

濱田純一総長からは、学生を受け入れていただいた関係者への感謝の言葉と、体験活動プログラムを通じて自分の知識を社会へ役立ててほしいという参加学生への期待が述べられた。



濱田純一総長によるねぎらいの言葉

続いて、体験活動プログラムの活動報告として、5つのプログラム(島根県「公営塾をプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト」、フランス「フランス特有の高等教育機関での国際交流」、千葉県「地方高校における学習支援」、インド「インターンシップや公的機関等での国際交流」、東京都「院内学級における教員補助」)に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学外機関からは、隠岐国学習センターの藤岡慎二氏、エコール・ポリテクニクの郡山幸雄教授(ビデオレター)、文理開成高等学校の鈴木淳理事長、品川区立清水台小学校さいかち学級の副島賢和教諭より、学生を受け入れた感想などが報告された。



隠岐国学習センターの藤岡慎二氏



島根県「公営塾をプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト」の発表



フランス「フランス特有の高等教育機関での国際交流」の発表



エコール・ポリテクニクの郡山幸雄教授よりビデオレター



文理開成高等学校の鈴木淳理事長



千葉県「地方高校における学習支援」の発表



インド「インターンシップや公的機関等での国際交流」の発表



東京大学インド事務所の吉野宏所長



東京都「院内学級における教員補助」の発表



さいかち学級の副島賢和教諭

最後に、体験活動の推進に関するワーキンググループ座長の大和裕幸理事・副学長より、体験活動の推進に関する実施体制や、体験活動プログラムの評価・成果について総括及び報告が行われ、盛況のうちに終了した。



大和裕幸理事・副学長による総括

報告会后に開催された懇談会では、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。なお、今年度の本報告会及び懇談会を実施するにあたり、約 20 名の学生が企画・立案から、当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つの表れとなった。



企画・立案、当日の運営に携わった学生スタッフ



長谷川理事・副学長による懇談会の乾杯



ロサンゼルスで制作した映画披露



学生企画のネパールツアー参加者



懇談会での中国プログラム参加者による発表



平成25年度 体験活動プログラム活動報告書

作成 平成26年3月
編集 東京大学 教育・学生支援部 学生支援課 体験活動推進チーム
住所 〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1
電話番号 03-5841-2541/2542
URL http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html